

### シラフワーク

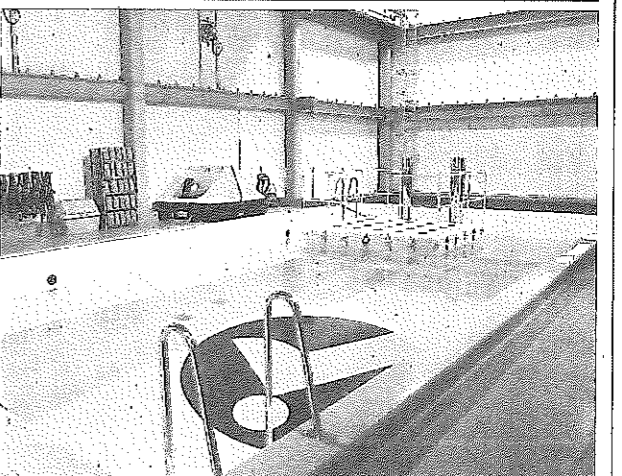
## 風力技術者向け教育施設

# 6月開講 幅広く訓練

風力発電設備のメンテナンスを手掛けるシラフワーク(川崎市、内田祐大朗社長)は、川崎市内に建設した風力技術者向けの教育施設で、6月から受講者の受け入れを開始する。陸上風力、洋上風力の双方に対応した施設で、年間1500人規模の受け入れを想定。風力発電設備の建設・保守で必要とされる基礎的な安全訓練、技術教育のほか、人命救助に関わる上級訓練など幅広いプログラムを用意している。

施設の名前は「シラフ」と提携。最新の設備やワークトレーニングセンター。首都圏のシラフワークを展開する。インストラクター5人のうち3人は外国人で、海外からの受け入れも想定している。建物は地上2階建てで、延べ床面積は約1320平方メートル。海上を模した水深3メートル以上のスク・トレーニング社の大型プールや、高所

作業に対応する高さ約10メートルのシラフワーク。実際の現場環境を想定した設備をそ



洋上風力向けの安全訓練を体験できるプール

のけがや病気に対処するための応急処置、高所作業時の安全行動、火災発生時の対応、海上での避難方法などを学べる。さらに上級のプログラムでは、人命救助に際する高度な処置やナセル、タワー、ブレードといった風力設備内での災害発生を想定した救助訓練などを行う。シラフワークは3月22日に、現地で関係者向けの内覧会を開催。内田社長は「風力発電産業を下支えできるような人材育成施設にしたい」と話している。

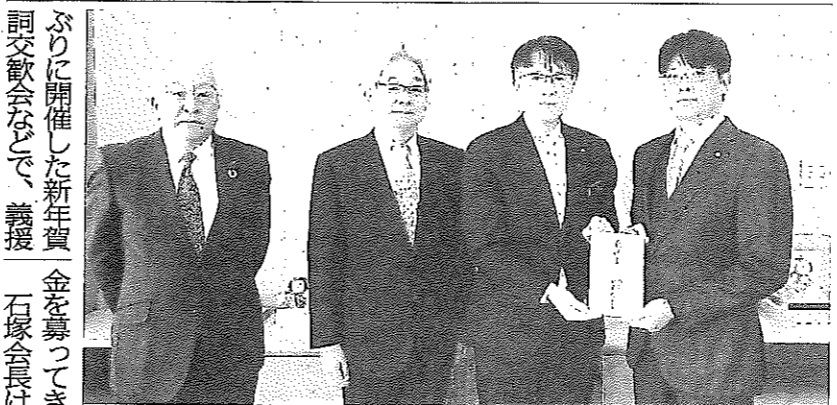
## 3年連続でベア実施

東光電工 人事制度を改変

東光電工は2024年度から、賃金や定期昇給とベアアップを合わせ、組合員平均で6.5%引き上げると発表。ベアは3年連続。4月入社の新卒初任給も3.1%増額した。大学院修了26万1600円(前年度比1万7200円増)、大卒25

## 九電工東京九栄会が義援金 能登被災者へ100万円

九電工東京本社協会の協賛で構成する九電工東京九栄会の石塚桂三会長(三明電気工事代表取締役)らが3月27日、石川県東京事務所(東京都千代田区)を訪れ、能登半島地震の被災者支援に向けて会員から募った義援金100万円を贈呈した。同事務所の中谷安孝所長は「皆さんの善意をしっかりと受け止め、確実に被災者の皆さまにお届けする」と感謝の意を示した。



中谷所長(右から2人目)に義援金を手渡す石塚会長(右)。写真左は九電工の大嶋知行取締役・専務執行役員・東京本社代表兼技術本部長、左から2人目は九電工東京九栄会の荒井康司副会長(AIエンジニアリング代表)

北陸電力送配電は3月25日から、停電の未然防止に向け、電柱などの営業写真投稿し、募った義援金を募った。復興のお手伝いを

## 営業写真の投稿募集

電柱など対象事故防

北陸電力送配電は3月25日から、停電の未然防止に向け、電柱などの営業写真投稿し、募った義援金を募った。復興のお手伝いを

## 工期の基準

勤務間イン

## 都内、仙台圏などを開拓

大阪市内で開発中のタワーマンマンションにオンライン診療サービスを導入するなど、付加価値創出にも取り組む。

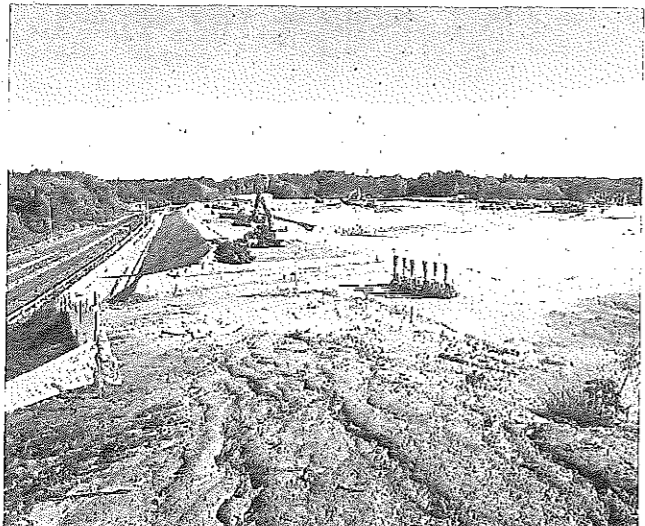
タワーマン初開発 首都圏の新たな事業戦略も策定した。関電不動産が都内でタワーマンシ

ョンを開発するのは、シエリアM(セッチ・マン)エリアブランドで初め、港区南麻布に計画する。横浜では500戸規模の大規模マンション開発に乗り出す。

土地区画整理事業にも重点を置く。仙台市北部版で、20年から4年連続首位を維持してきた。最寄りとなる仙台市宮城地下鉄の泉中央駅までを結ぶ基幹交通システムは整備に向けた検討が始まっている。

## 分譲住宅「シエリア」など展開に力

関電不動産開発(大阪)市、藤野研一社長)は、これまで関西圏を中心とした分譲住宅事業を拡大する。都内ではタワーマンマンション開発計画を発表。仙台圏では同社の分譲住宅ブランド「シエリア」を積極的に展開している。宮城県仙台市では土地区画整理事業に力を注ぐ。近隣で半導体工場が計画されており、住宅需要の受け皿にもなる。関電不動産は松下興産を源流とするMID都市開発と2016年に合併。実績を積み重ねてきた。不動産経済研究所が2月に発表した近畿圏の新築分譲マンション供給戸数(投資用を除く)は3年連続で1位を獲得。



仙台北部道路の南側で進む整地工事

分譲マンションと戸建て住宅の総竣工戸数は全国で約5万戸に到達し、「新築分譲マンション」の第2期工事に着手した。他の共同事業者と1972年に5000戸の用地を買収しており、94年台開拓。シエリアブランドの分譲マンションは「錦町二丁目」「杜せき」が竣工。「仙台」が竣工。未整備だった部分の定禅寺通り「仙五橋」一部(約3300坪、474戸)も建設が進み、25年度までは関電不動産主導の開発で完成する。杜せきの物件は県内初となる「Zエ、来年6月には道路整

備が完了する見通しだ。富谷市は地価上昇が著しい。人口は約5万2千人(24年2月)で、90年頃から2倍に増加。大型商業施設があり、自然にも囲まれ子育て世代からの人気が高い。大東建設が発表する「街の住みこころランキング」の東北版で、20年から4年連続首位を維持してきた。最寄りとなる仙台市宮城地下鉄の泉中央駅までを結ぶ基幹交通システムは整備に向けた検討が始まっている。

## 電気工事・保安

## 関電不動産

の災害発生を想定した救助訓練などを行う。シラフワークは3月22日に、現地で関係者向けの内覧会を開催。内田社長は「風力発電産業を下支えできるような人材育成施設にしたい」と話している。